

週報①

広島市医師会臨床検査センター受託分 感染性胃腸炎検出状況

検出菌 ウイルス	2023年												2024年											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月 ~4日	8月 ~11日	8月 ~18日	8月 ~25日	9月 ~1日
カンピロバクター	48	30	46	63	57	67	75	49	29	47	43	65	20	24	38	25	57	50	39	11	9	4	17	6
病原性大腸菌	47	37	55	103	120	108	102	56	52	49	80	102	43	61	105	92	79	76	83	12	30	9	18 (19)	17
腸管出血性大腸菌	1	1	4	1	0	1	0	1	1	0	0	0	0	3	1	0	1	2	1	1	4	1	0	0
サルモネラ	7	2	2	7	7	13	25	6	12	15	6	9	4	4	2	7	5	8	12	10	10	5	4	4
黄色ブドウ球菌 MSSA	15	10	13	14	21	8	12	15	18	21	18	16	6	4	16	4	12	21	11	5	5	4	3	2
黄色ブドウ球菌 MRSA	13	10	14	15	14	10	11	11	9	5	9	16	8	6	12	6	3	10	8	1	2	1	1 (2)	3
腸炎ピリオ	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	1	1	2	0	0	4	8	2	1	0	2	0	0	0	0	0	1	3	1	0	3	1	1	0
ロタウイルス	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0
アデノウイルス	0	0	1	2	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0
ノロウイルス	14	11	6	1	1	0	0	0	0	0	0	4	9	20	10	3	4	0	1	1	0	0	0	0

()は前回集計後に新たに検出された件数を含めて表示しています。

週報②

広島県感染症・疾病管理センター(ひろしまCDC) 感染症週報

令和6年第35週(8月26日~9月1日)

2. 一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類感染症発生状況

類別	報告数	疾患名	計	西部	西部東	東部	北部	広島市	呉市	福山市
一類	0	発生なし	0							
二類	5	結核	5			1		3		1
三類	2	腸管出血性大腸菌感染症	2	1	1					
四類	4	日本紅斑熱	3						1	2
		レジオネラ症	1					1		
五類	9	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	1					1		
		バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1						1	
		百日咳	1		1					
		梅毒	6					6		

注) 西部…大竹市、廿日市市、府中市、海田町、熊野町、坂町、安芸高田市、安芸太田町、北広島町、江田島市
西部東…竹原市、東広島市、大崎上島町
東部…三原市、尾道市、世羅町、府中市、神石高原町
北部…三次市、庄原市

● 詳しい流行状況は、広島県感染症・疾病管理センターのホームページをご覧ください。 <https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/hcdc/>

■コメント

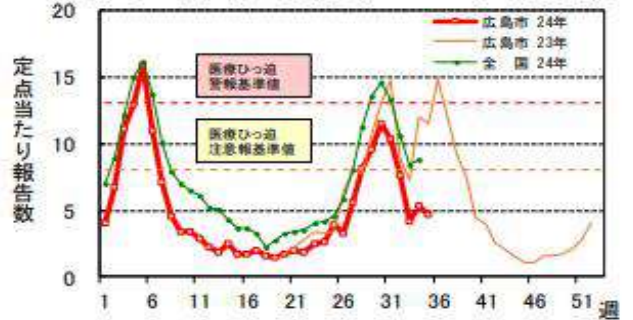
1 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)

定点当たり4.66人の報告がありました。高齢者施設や医療機関等における集団発生の報告が続いています。医療機関受診時や高齢者施設を訪問する際は、感染予防としてマスクの着用が効果的です。また、体調がすぐれないときは、お見舞いや高齢者施設の訪問は控えましょう。

【参考】広島市における新型コロナウイルス感染症の新規集団発生事例(広島市)
<https://www.city.hiroshima.lg.jp/site/korona/341008.html>



新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の流行状況



2 マイコプラズマ肺炎

定点当たり4.00人の報告があり、多い状況が続いています。マイコプラズマ肺炎は、長引く咳が特徴で、感染経路は飛沫感染と接触感染です。手洗いの励行、咳エチケットなど、感染予防対策を心がけましょう。

3 手足口病

定点当たり4.50人の報告があり、多い状況です。手洗いの励行、オムツの適切な処理、タオルの共用を避けるなど、感染予防対策を心がけましょう。特に、乳幼児が集団で生活する保育園や幼稚園などでは、注意が必要です。

4 レジオネラ症

今年の累計は15件となりました。

■定点把握感染症報告状況(週報対象)

定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	過去5年間平均(注)	発生記号	定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	過去5年間平均(注)	発生記号
インフル	インフルエンザ	9	0.26	0.42		小児科	ヘルパンギーナ	6	0.27	0.84	
	新型コロナ(COVID-19)	163	4.66				流行性耳下腺炎	-	-	0.04	
小児科	RSウイルス感染症	20	0.91	1.32		眼科	急性出血性結膜炎	-	-	-	
	咽頭結膜熱	4	0.18	0.39			流行性角結膜炎	4	0.50	0.33	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	25	1.14	0.81		基幹	細菌性髄膜炎	-	-	-	
	感染性胃腸炎	67	3.05	2.59			無菌性髄膜炎	-	-	-	
	水痘	-	-	0.08			マイコプラズマ肺炎	28	4.00	0.03	
	手足口病	99	4.50	1.60			クラミジア肺炎(オウム病を除く)	-	-	-	
	伝染性紅斑	1	0.05	0.15			感染性胃腸炎(ロタウイルス)	1	0.14	-	
	突発性発しん	4	0.18	0.35							

急増減 ↑ ↓ 前週と比較しておおむね1:2以上の増減

増減 ↗ ↘ 前週と比較しておおむね1:1.5~2の増減

微増減 ⇄ 前週と比較しておおむね1:1.1~1.5の増減

横ばい ⇨ ほとんど増減なし

報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。

インフルエンザ/COVID-19定点数(小児科定点を含む)	35
小児科定点数	22
眼科定点数	8
基幹定点数	7

(注)過去5年間の同時期平均(定点当たり)

■全数把握感染症報告状況

類型	疾患名	報告数	累計	備考
2	結核	3	75	60歳代、80歳代、90歳代
4	レジオネラ症	1	15	50歳代
5	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	1	5	80歳代
5	梅毒	6	111	20歳代・2人、30歳代・3人、40歳代・1人